



学校だより ウルムス

～友達を思いやり、友達とひびき合う心～

学校ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamariyaminami/>

平成28年10月31日

11月号

横浜市立釜利谷南小学校

校長 鈴木 秀一

学校の伝統 ～愛川体験学習から～

副校長 内海 司馬

釜利谷南小学校に赴任してから初めて宿泊体験学習に行ってきました。場所は神奈川県愛川町。4年生と5年生と合同で行きました。2学年一緒ということで5年生は前年度の経験をもとにして4年生にいろいろと教えていました。部屋での過ごし方から、薪の組み方、カレーの作り方やキャンプファイアの楽しみ方まで活動全般にわたっていました。この活動がしやすいようにグループも4、5年生が混じったものになっていました。4年生としては小学校生活初めての宿泊。それをリードしていく5年生。4年生にとっても5年生にとっても良い体験となっています。特に5年生は一部の児童だけがリーダーということではなく、生活班、活動班に分かれてまたそれぞれの場面での役割があり、たくさんの児童が責任をもって活動を行っていました。これが釜利谷南方式、言い換えると学校の伝統となっていました。小学校では、6年生になると学校生活全般に渡ってリーダーとしての働きがでできます。その前段階としてもこの時期の5年生が責任をもって下学年をリードする姿はすばらしいものです。



学校の伝統といえば文部科学省の中央教育審議会の答申においても、特色ある学校づくりが上げられています。これは横浜市も同様で中期学校経営方針でもそのあたりが大切に扱われています。本校の特色としては、学校運営協議会を中心とした地域・保護者とのつながり、ウルムスサポーターを中心とした各サポーターの活動が挙げられます。地域・保護者の方が学校のために何ができるかを考えていただき子どもたちのサポートを考えて動いてくださっています。具体的には、観察池の整備や観察用水田の防鳥ネット、渡り廊下のギャラリー化、またこの場所のペンキ塗りを行った年もあったと聞いています。今年度はまだ相談の最中ですがだいぶ傷んできた投てき板の塗り替えを考えているところです。

「地域と保護者とのつながり」を大切に学校の運営ということについては、どの学校でも大なり小なり掲げているところが多いと思います。この文言にいのちを与えるのは人のちからであると思います。本校の学校運営協議会のメンバーには、地域からの代表のほか、地域コーディネーターの3名が名を連ねています。このお三方は皆さん本校のPTA会長の経験者です。地域との太いパイプを持ち、学校がお願いする各種サポーターとの間をつないでくださったり、新しい提案をしてくださったりと動いてくださっています。ありがたいことです。地域の方々は学習の随所でスペシャルティーチャー（本校ではそう呼んでいます）として子どもたちのために支援してくださっています。

このような活動の積み重ねもあり、平成28年度PTA文部科学大臣表彰の被表彰団体となりました。そして創立28年の釜利谷南小学校の伝統から生まれた歴史の1ページに書き加えられることとなりました。



今年度学校では、挨拶に力を入れています。先日の区の音楽会には3年生が学校の代表として参加し、そこで「おはよう」という曲を歌いました。「おはようっていうとき きみはうれしいかおしてる。」で始まる歌です。釜利谷南小学校が今大切にしている挨拶ともぴったりと一致します。この曲を柔らかいびと響きのある素敵な声で歌ってきました。挨拶の声が響き渡る学校、家庭、そして地域。こんな輪が学区にある釜利谷中学校や関東学院大学とも力を合わせて広がっていくといいと考えます。